

1人1台端末の活用による実践事例 (小・中学校用)

学校名	久米南町立弓削小学校	実践者名	黒澤 賢臣
教科等	総合的な学習の時間	学年	第6学年
活用内容	作品作成 発表・プレゼン	実践日	令和3年10月13日
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 3
単元・内容等	「伝えよう、ほんにいいところ久米南町」AR アプリ『マチアルキ』を活用し、友達と協力して久米南町の魅力をまとめ、発信する。		

活用の概要（目的・活用場面・使用アプリ名を含む）

- (1) ワークシートや制作した映像などから、これまで探究的に学習を進めたことを振り返り本時の課題をつかむ。

久米南町の魅力を見る人にわかりやすくまとめよう。

- ・学習の見通しを持つことができるように、学習の流れやアプリの使い方を掲示しておく。
 - ・視聴者が「わかりやすい・ワクワクする・行ってみたい」と感じられるものにするという視点を再確認する。
- (2) 「誕生寺」「治部邸」「特産物」「久米南美しい森キャンプ場」の紹介ページを作る。
- ・グループで協力してアプリを活用し、互いに分からないことを教え合ったり、より良いアイデアや表現方法を考えたりする姿を認め「チームで作る」意識を高める。
 - ・時間いっぱい、グループで試行錯誤するよう伝える。
- (3) 本時でできたところまでを共有する。
- ・互いの作品の良いところや改善点などを伝え合い、次回の学習課題へとつなげていく
 - ・視聴者目線でページを作成できているか声をかけ、作品の目的意識を再確認し、次時につなげるようにする。



- (4) 本時のまとめと振り返りをする。

AR アプリ「マチアルキ」を活用し、グループで協働して『作る→直す』の活動を繰り返した。友達からのアドバイスをすぐに反映させ改善を繰り返したことで、視聴者の目線に立った表現の工夫につなげることができた。(指導主事より)

実践者の手ごたえ	児童生徒・保護者等の主な反応や声
児童は視聴者の立場に立って、どのようなページにするとよいかを、話し合いながら工夫して制作した。また、少人数の班編成で一人一人がタブレットを操作できる環境が、自然と児童同士が話し合い、試行錯誤しながらページ作りをするための良い環境となった。	(児童から) 「友達と同時に同じページで役割分担をして制作できるため、意見の共有や確認がやりやすかった。」「友達と助け合って、協力しながら取り組むことができた。」「みんなの考えが一つのポスターとなるのが楽しみだ」

「AR アプリ マチアルキ」…簡単に AR を使って情報発信が可能なアプリ <https://www.machiaruki.jp/>

※本授業は、久米南町立弓削小学校令和3年度研究「自分の考えを持ち 生き生きと活動する児童の育成をめざして～「非認知能力」や児童の気づきを大切にしたい授業を通して～」の一環として実施された。

本研究に関する詳細は、下記 URL を参照

(弓削小学校 HP https://www.town.kumenan.lg.jp/school_yuge/index.html)